

哺乳類

長野県中川村片桐（天竜川西部）で
ニホンジカの子供を記録

小林 正明

2004年6月6日、中川村片桐中通でニホンジカの子供を目撃した事例を記録する。最近、天竜川西岸地域からニホンジカ目撃記録がいくつか報じられている。その記録に加えておく。

目撃者は片桐の片桐充昭氏（飯田女子短大教授）他数名であった。前沢川支流の標高560m地点（図1）で地区の河川清掃や草刈作業をしていたところ、ヨシ原の中に幼シカがうずくまっていたと言う。気がつかずに作業していたためシカに少し傷がついたようだが、そのままにして立ち去ったとのこと。おそらく後から母シカが連れていっただろうとのことであった。

草食性のシカは生後数時間で歩き回れる。子ジカは1週間もすれば片時も母シカを離れずに動き回る。子ジカを置いていくのは生後の日令が少ないときであろう。したがってあまり遠くないところで生まれたと思われる。

この記録は、このような場所に子ジカがいることから次のようなことを予想される。それはシカが意外に私たちの身近で生活していること、人の生活圏で仔を



図1 ニホンジカ確認地点

産むことはイヌの係留が原因ではないかと思われること、遠からず段丘崖付近ではシカの食害をうける可能性があることなどである。中央アルプス山麓が遠山郷のようにシカの食害に苦しめられることが無いようにと願う。

（こばやし まさあき／長野県飯田市座光寺2155）

昆虫類

長野県飯田市での
ビロードハマキの採集記録

四方 圭一郎

ビロードハマキ *Cerace xanthocosma* Diakonoff, 1950 は、照葉樹林帯に主な生息域を持つ大型の美麗ハマキガである。長野県ではほとんど見ることができない種であり、これまで正式な報告は無いと思われる。筆者の手許には、飯田市で採集された本種の標本があるので、記録しておく。

1♀、飯田市上久堅小野子、7.Jul.2005、仁科松志氏採集、飯田市美術博物館保管（図1）。

採集された仁科氏は、見たことのない蛾がいたためにこれを採集され、福与佐智子氏を介して生きたまま美術博物館に持ち込まれた。

見たことのない蛾として、本種を採集された仁科松志氏の自然観察のセンスに敬意を表すると共に、仲介の労をとられた福与佐智子氏にもお礼申し上げる。

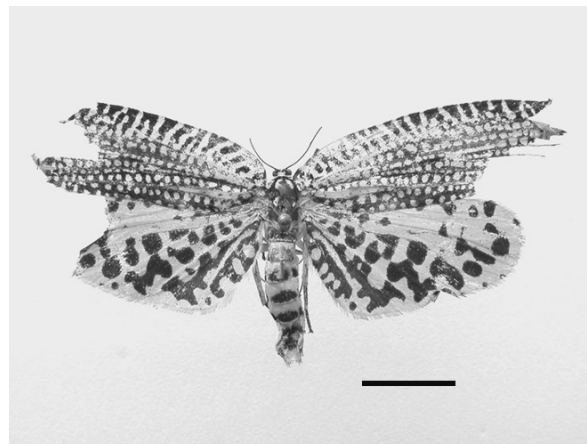


図1 ビロードハマキ（スケールは10mm）

（しかた けいいちろう／飯田市美術博物館）